

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	夜間救急出動中、道路狭隘箇所での救急車の物損事故を起こした事案
3. 体験した事例の中心的要素	事故発生は、18時頃で冬季間により日没も早く、小雨がふっており視界が悪い中での出動となる。災害点宅前の道を右折にて進入しようとした際、石塀（高さ約30cmほど）に車両右側サイドシル部分を接触させ破損させたもの。
4. 体験した事例の原因・理由	事故当時、小雨及び夜間により視界の確保がしにくい中、道路状況の確認を疎かにしたこと。また、自分自身の運転技術を過信し、車両進入を行ったこと。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。（大丈夫だろうと思った。）
------------------	------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和4年12月6日 午後6時頃
2. 発生した当時の天候	雨
3. 発生した活動現場	屋外：道路両端に石塀があり、街灯が少なく夜間時は道路状況が確認しにくい場所。
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	交通事故
7. 事例体験時の活動	救急出動途上
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	その他：現場到着前
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	これまでに1, 2回程度体験している。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[24]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[5]年、階級[消防士] 同様の活動 [頻繁]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[46]歳、勤続年数[28]年、現場経験年数[28]年、階級[消防司令] 同様の活動 [頻繁]、任務 [車長]
○当事者C	年齢[30]歳、勤続年数[11]年、現場経験年数[11]年、階級[消防士長] 同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A・B・C	出動	
経過2	当事者A	傷病者宅約150m付近まで到着	
経過3	当事者A	傷病者宅西側の丁字路右折時、 住宅塀に車両接触	自走可能
経過4	当事者A・B・C	傷病者宅到着	
経過5	当事者A・B・C	現場離脱・傷病者搬送	
経過6	当事者A・B・C	帰署	
経過7	当事者A・B・C	事故現場確認	
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

(個人)指令端末等で災害点の確認を行うとともに、地理に詳しい方へ確認する事で、道路状況を詳細に確認し進入経路の不安を取り除く。

○装備・資機材の対策について

(個人・部隊)車両積載のライト等を有効活用し、死角を無くす。

○活動環境の対策について

(部隊)意見の進言がしにくい状況にならないよう、常日頃から隊員、隊長との交友を深める。

○指揮・情報伝達の対策について

(部隊)隊員間での声かけをさらに徹底し、部隊全体で状況把握に努めていく

事故事例図面

